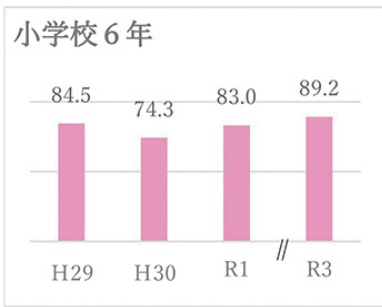


◆ 1日の始まりは朝食から。朝食をしっかりとましよう！ ◆

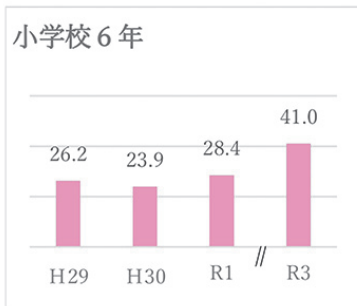


・朝食を毎日食べている ( )は全国  
小学生 89.2% (85.8%)  
中学生 73.6% (81.8%)

◇毎日朝食を食べている小学生の割合は全国平均以上ですが、中学生では全国と比べ約8ポイントほど下回っています。  
◇朝食をとる割合は、平成30年度以降改善傾向が見られます。朝食を食べて、脳と体を目覚めさせましょう。

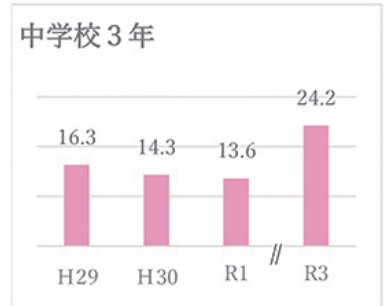


◆ 家で、自分で計画を立てて学習する子どもが増えてます！ ◆



・家で、計画を立てて学習する ( )は全国  
小学生 41.0% (31.2%)  
中学生 24.2% (19.4%)

◇今年度は小・中学生ともに全国平均を上回りました。  
◇小学生は平成30年度、中学生は令和元年度以降、大きく増加し改善傾向が見られます。(この目標は、日高町学力向上3年次計画の目指す「3年後の子どもの姿」の1つです)

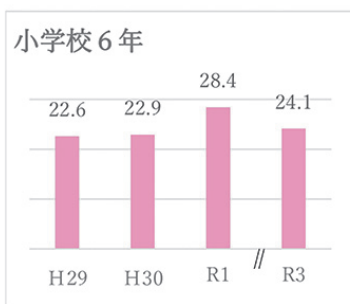


しかし、家庭での学習習慣の定着が課題！ (学年×10分)

・月曜日から金曜日まで学校の授業以外に1時間以上学習(塾や家庭教師、インターネットを活用しての学習を含む)する ( )は全国 小学生 50.6%(62.5%) 中学生 53.9%(75.9%)  
▲全国と比べ、小学生で11.9ポイント、中学生では22.0ポイント下回っています。「計画を立てて学習する」小・中学生の割合は改善傾向にあるため、今後は学習量を増やしていくことが重要です。

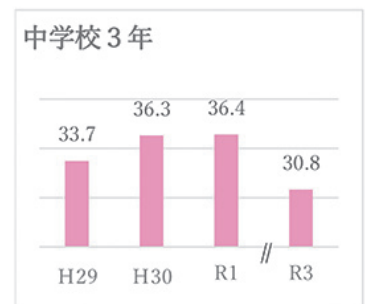


◆ 自分ではわからない。だからこそ気付かせましょう、子どものよいところ！ ◆



・自分にはよいところがある ( )全国  
小学生 24.1% (36.2%)  
中学生 30.8% (34.5%)

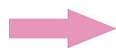
◇小・中学生ともに令和元年度より減り、依然として自尊感情の低い状態が続いています。  
◇将来に対する夢や希望をもつ子ども減少傾向にあります。よいところを気付かせながら自信を持たせ、未来への希望をふくらませることが大切です。



【日高町学力向上3年次計画】



(令和3～6年)  
3年後の子どもの姿



- ◎課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む
- ◎難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦し続ける
- ◎予習や復習など、家でも自分で計画を立てて勉強する

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果

【お問い合わせ先】日高町教育委員会 管理課 電話 01456-2-3721

## ◇全国との差が広がった国語、縮めた算数・数学

前回調査（令和元年度）と比べ、小・中学生ともに国語では全国平均との差が広がりましたが、算数・数学では縮まりました。

（全国との差）

区分	小学生		中学生	
	国語	算数	国語	数学
令和元年度	-1.8	-4.6	-3.8	-7.8
令和3年度	-6.7	-2.2	-5.6	-6.2

【調査対象】 小学校6年生（83名）  
中学校3年生（91名）

【調査実施日】 令和3年5月27日

【調査内容】

- 教科に関する調査(国語、算数・数学)
- 生活習慣や学習環境等に関する調査
- ・児童生徒の学習習慣等に対する質問紙調査
- ・学校の取組に対する質問紙調査

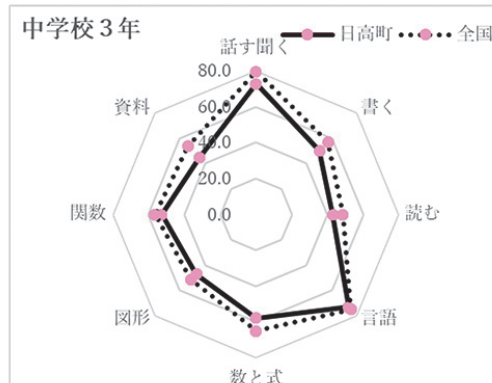
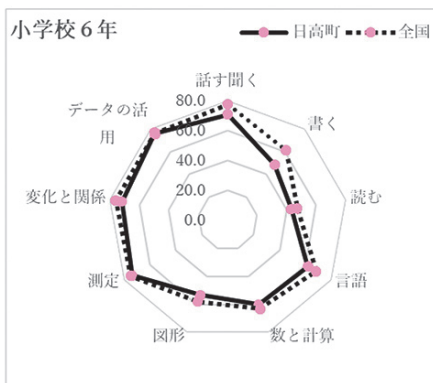
### 【小学生】《成果◎と課題▲》

《国語》

- ◎平均正答率では、「話す聞く」と「言語」の領域が高かった。
- ◎「読む」領域の平均正答率は低いが、全国との差は-5ポイント以内である。
- ▲「書く」領域が、全国との差が一番大きい。（差：-11.9ポイント）
- ▲問題形式別では、「短答」が全国との差が大きい。（差：-10.8ポイント）

《算数》

- ◎全体の正答率と3つの領域（「数と計算」「測定」「データの活用」）は、全道を上回った。
- ◎問題形式別では、「選択」が全国を上回り、「短答」でも全道を上回った。
- ▲「図形」領域の正答率が低く、全国との差も一番大きい。（差：-4.5ポイント）
- ▲問題形式別では、「記述」が全国との差が大きい。（差：-7.8ポイント）



### 【中学生】《成果◎と課題▲》

《国語》

- ◎平均正答率では、「話す聞く」と「言語」の領域が高く、特に「言語」は全国との差が-2ポイントであった。
- ◎問題形式別では、「選択」と「短答」が全国との差-5ポイント以内である。
- ▲「話す聞く」と「書く」領域が、全国との差が一番大きい。（差：ともに-6.9ポイント）
- ▲問題形式別では、「記述」が全国との差が大きい。（差：-7.6ポイント）

《数学》

- ◎平均正答率では、「数と式」と「関数」の領域が高く、特に「関数」は全国との差が-3.7ポイントであった。
- ◎問題形式別では、「選択」が全国との差-5ポイント以内である。
- ▲「資料の活用」領域が、全国との差が一番大きい。（差：-9.0ポイント）
- ▲問題形式別では、「短答」が全国との差が大きい。（差：-7.3ポイント）